

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2592 号

Predictors of major cardiovascular and cerebrovascular events after acute coronary syndromes: A retrospective observational study among elderly patients

急性冠症候群後の主要脳・心血管イベント予測因子：高齢者における後ろ向き観察研究

濱 芳紀（はま よしのり）

博士（医学）

論文審査結果の要旨

本論文は、高齢化が進む本邦において、介護を要する高齢の急性冠症候群（ACS）初発患者における主要脳・心血管イベント（MACCE）の予測因子を明らかにした、臨床的に意義のある論文である。日本では高齢化が急速に進んでいるが、ACS 初発患者における MACCE の臨床的予測因子は十分に検討されていない。そこで本研究では、高齢の介護を要する ACS 初発患者における MACCE の予測因子を明らかにすることを目的とした。Yokohama Original Medical Database (YoMDB) データベースを用いて、介護認定を受けた ACS 初発患者 3361 人を抽出して MACCE 発症割合を後ろ向きに調査した。各患者の日常生活自立度（IDL）を 3 つのカテゴリー（reference, mild, severe）のいずれかに分類したが、IDL のような介護認定情報を患者背景ならびに多変量解析の説明変数へ採用したことは、本研究のユニークな点である。MACCE の予測因子は、多変量ロジスティック回帰分析を用いて同定した。本研究により、IDL の低下は MACCE のリスク上昇と線形に関連し、reference, mild, severe の調整オッズ比はそれぞれ 1.00、1.35 (95%信頼区間 1.14-1.60)、2.12 (95%信頼区間 1.61-2.80) という結果が得られた。また、男性、慢性腎臓病、心房細動、高強度スタチン、低強度スタチン、低 IDL（自立度が低い状態）が、MACCE の予測因子であることも明らかになった。これらの結果より、性以外の介入可能な予測因子に対する対策を実施することで、介護を要する高齢の ACS 初発患者の MACCE を抑制できる可能性が示唆された点に本研究の新規性がある。今後、実際に介入した結果に関する研究が期待される。

よって、本論文は博士（医学）の学位を授与するに値するものと判定した。